

令和4年度学校だより

学校教育目標 自主 責任 明朗



# 六中だより 7月号

開校43年目

〒352-0023 埼玉県新座市堀ノ内3-11-1

TEL 048-478-2764 FAX 048-482-0136

HP <http://www.c-niiza.ed.jp/j-dairoku>

全生徒数：658名



物事を「プラス思考」で考える  
～ 美しく・温かく・常に前進 ～

校長 齊藤 直之

6月27日、気象庁は「関東甲信地方、東海地方、九州南部が梅雨明けしたとみられる」と発表しました。

関東甲信地方は平年(7月19日ごろ)より22日早く、昨年(7月16日ごろ)より19日早い梅雨明けで、統計開始以来最も早い梅雨明けだそうです。6月中の梅雨明けは、6月29日に梅雨明けした2018年以来4年ぶりとなります。

今後は、厳しい暑さが予想されます。適切なマスク着用のもと、梅雨明け直後の熱中症には、十分ご注意ください。

梅雨明けの報道を見ていて、疑問を感じ、調べてみることにしました。それは、6月から7月に降る雨の時期に、なぜ「梅」の字が使われているのかです。いろいろな説があるようですが、その一つを紹介します。

梅の実が大きくなるためには雨が必要です。6月の初めのころはまだ実が硬くても、6月の終わりごろには大きくなって収穫ができるようになります。大きくなった梅の実が熟して潰れる時期でもあることから、「梅が潰れる時期の雨」ということで「梅雨(つゆ)」になったそうです。

さて、雨がたくさん降っていると外にも出かけづらいし、じめじめしていやだなあと思う人もいるかと思いますが。でも、このたくさん降る雨は、日本に住む私たちにとって、とても大切なものな

のです。私たちが、毎日食べているお米は、6月から7月にかけて大きく生長します。お米が育つためには、たくさんの水が必要になるので、梅雨の雨が大切なのです。また、私たちの生活にも水が欠かせません。飲み水やお風呂や洗濯・料理等、毎日たくさんの水を使っています。そのためには、水を貯めておく必要があります。特に、梅雨が明けると暑い夏がやってきて、雨も少なくなります。日本では、山に降ったたくさんの雨を、山の中で川を堰き止めて作った「ダム」に貯めることができます。私たちは、そのダムから川に流れてくる水を、きれいにしています。梅雨の雨は、私たちが夏に使う水を、たっぷりとダムに貯める素晴らしいチャンスになるのです。こう考えると、梅雨の期間は大切なのだということがよく分かります。そう考えると、梅雨が明けたからと言って、喜んでばかりはいられません。水不足といった新たな課題も見えてくるからです。

よく考えてみると、一つ一つの物事には意味があり、様々な繋がりの中で私たちの生活は成り立っているのです。梅雨の話題一つから、SDGsの考え方につながるように、ものの考え方によって、見方は変わります。

暑い夏が始まります。暑い中でも楽しみを見つけ、充実した意味のある生活を。何事も「プラス思考」でいきましょう。